

# 大倉由紀枝 (S)・福井敬 (T) ジョイント・リサイタル

## 1部

野の羊……………服部 正

「六つの子供の歌」より……………中田喜直

- |         |            |
|---------|------------|
| 1 うばぐるま | 4 たあんき、ぼんき |
| 2 鳥     | 5 ねむの木     |
| 3 風の子供  | 6 おやすみ     |

別れの歌……………トスティ

わすれな草……………クルティス

彼女に告げてよ……………ファルヴォ

## 2部

「カルメン」より

母の手紙を持って (二重唱)……………ビゼー

「蝶々夫人」より

ある晴れた日に……………ブッチーニ

「トスカ」より

妙な調和

歌に生き、恋に生き……………ブッチーニ

「リゴレット」より

女心の歌……………ヴェルディ

「椿姫」より

乾杯の歌 (二重唱)……………ヴェルディ

秋

# 1997 四季のコンサート ふれあい音楽会

1997年10月9日(木) 6:45PM

会場：浜松市教育文化会館

主催：浜松音楽友の会

## プロフィール

### 大倉由紀枝 (ソプラノ)

国立音楽大学卒業。東京芸術大学大学院修了。吉田美代子、柴田喜代子、柴田睦雄、ニコラ・ルッチの諸氏に師事。1978年第13回民音コンクール第1位受賞。1979年イタリアに留学。ミラノにてガリニニ女史に師事。1981年「カプリッチョ家とモンテッキ家」のジュリエッタでデビュー。その後「ジャンニ・スキッキ」、「フィガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ホフマン物語」、「魔笛」、「チャルダッシュの女王」等を演じ好評を博す。また1990年二期会創立40周年記念公演「お蝶夫人」ではタイトルロールを演じ絶賛される。1993年二期会公演「シモン・ボッカネグラ」でアメリカ、1995年「黒船」で主役「お吉」を演じる。また第50回芸術祭大賞を受賞した東フィルオペラコンチェルトシリーズにも出演。コンサート活動においてはベートーヴェン「第九」をはじめ、小沢征爾指揮によるマーラー「復活」、「千人の交響曲」、「嘆きの歌」や、ハイドン「天地創造」、ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、ブリテン「戦争レクイエム」、など幅広いレパートリーを持ち、特に1989年のN響定期オネゲル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」では聖女マルグリットを歌い高い評価を得るなど、国内外の著名な指揮者やオーケストラと数多く協演している。実力と華を兼ね備えた日本を代表するソプラノの一人である。二期会会員。

### 福井敬 (テノール)

国立音楽大学声楽科卒業。卒業時に矢田部賞受賞。同大学院声楽専攻オペラコース修了。二期会オペラスタジオ第32期研究生修了。修了時に優秀賞及び川崎静子賞受賞。文化庁オペラ研修所第7期生修了。90年文化庁芸術家在外研修員として1年間イタリア・ミラノへ留学。第20回イタリア声楽コンクールにおいてミラノ大賞(第1位)を受賞。第20回シローオペラ賞新人賞受賞。第4回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。その功成により94年から1年間ミラノへ留学。第44回芸術選奨文部大臣新人賞受賞。

平野忠彦、伯田好史、布施隆治、V・ボッローニ、G・オンニベーネの諸氏に師事。オペラでは二期会創立40周年記念公演「ラ・ボエーム」のロドルフォで二期会デビューし、その後も「こうもり」、「シモン・ボッカネグラ」、「外套」、「カルメン」、「魔笛」などに出演。その他「蝶々夫人」、「トゥーランドット」、「アドリアーナ・ルクヴール」、「ドン・ジョヴァンニ」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「後宮よりの逃走」、など数多くのオペラに出演している。コンサートにおいても、ベートーヴェン「第九」、「ミサ・ソレムニス」、ヘンデル「メサイア」、バッハ「ロ短調ミサ」、ハイドン「天地創造」、モーツァルト「レクイエム」、など数多くのソリストを務め、95年9月には湘南台でリサイタルを行い好評を博した。またジョイント・リサイタルや、サロン・コンサートなど活躍が著しい。二期会会員。東京グレース会会員。

### 福井俊之 (ピアノ)

東京芸大大学院修了後、スペイン、イタリアで研鑽を積む。第1回日本モーツァルト音楽コンクール・ピアノ伴奏部門入選以来、東京芸大、二期会、日生劇場などでオペラの伴奏者として活躍している、また作曲家としても活躍、主な自作品に「ねぶり流し物語」、「あの日のまんま」(作曲部門最優秀賞受賞)、歌曲集「薔薇の世界」がある。

現在、東京芸大伴奏講師、国立音大講師、二期会イタリア歌曲研究会ピアニスト、ピアノ伴奏、作曲、編曲のほか、最近では指揮も行っている。

大倉由紀枝 (S)  
福井 敬 (T)  
リサイタル



YUKIE OKURA  
KEI FUKUI  
VOCAL JOINT  
RECITAL

●服部 正／野の羊

服部正は1908年（明治41年）東京生まれの作曲家。慶応義塾大学法科卒業。昭和10年に音楽コンクール作曲部門で第2位になっています。昭和28年から49年まで国立音楽大学の教授をつとめ、東宝や新東宝で映画音楽を多数作曲、またNHKの番組でも編曲や作曲に活躍しました。この歌曲「野の羊」は太田惇夫の詩によるもので、リズムカルな伴奏にのり、広い野原と一頭の羊に託して詩人の爽やかな気持ちが歌われています。

●中田 喜直／六つの子供の歌

＜夏の思い出＞＜雪の降る町を＞＜小さい秋＞＜めだかの学校＞…。誰もが、何かしらの思い出をもっている歌ではないでしょうか。これらの歌を作曲している中田喜直は1923年（大正12年）東京生まれの作曲家。東京音楽学校ではピアノを専攻しましたが、卒業後、柴田南雄、入野義郎などと共に作曲グループ「新声会」に参加し本格的な創作活動を開始しました。＜六つの子供の歌＞はそこで1947年に発表された作品です。

曲は第1曲からそれぞれ西條八十、小川未明、竹久夢二、山村暮鳥、野口雨情、三木露風、の詩によるもので、「子供の歌」とありますが、子供によって歌われるというよりも、子供の気持ち、あるいは子供を思う気持ちが歌われている作品といえるでしょう。6曲がまとめて演奏されるように書かれています。

●トスティ／別れの歌

トスティ（1846～1916）は、イタリアの音楽家兼作曲家。今日でいえば、シンガーソングライターのような人だったわけですが、オペラや民謡ではなく、純粋な芸術歌曲の作曲家として、イタリアでは先駆的な作曲家として高い評価を受けています。その歌曲は一度聴いただけで魅了されるような甘美なメロディー、わかりやすいと同時に、詩の意味に深くかかわる陰影ある和声の美しさなど、どの曲も捨てがたい味わいをもっています。この＜別れの歌＞は、フランス語によっています。

●クルティス／わすれな草

あまりにも有名な＜帰れソレントへ＞の作曲家エルネスト・デ・クルティスによるヒット曲。1935年、そして1959年に名テノール、タリアヴィーニ主演により再映画化された同名の映画主題曲です。

●ファルヴォ／彼女に告げてよ

1930年に作曲された、ナポリ民謡の傑作のひとつ。切ない恋を歌った曲です。

●ビゼー／＜カルメン＞より 二重唱「母の手紙を持って」

ビゼー（1838～1875）最後のオペラ「カルメン」は、スペインを舞台としたもので、躍動感あふれる生命力や登場人物の適切な性格描写、さらに劇的効果に満ちあふれた管弦楽の力は、まさに天才のものといえる。このオペラによってビゼーの名はフランス国民オペラの創始者として永遠に讃えられるものとなったのです。

この二重唱はすでにカルメンに心を奪われているホセと、ホセを慕うミカエラによって歌われるもの。故郷に住むホセの母にことづかってきた手紙だけでなく「キス」も贈りますというミカエラが何とも可憐です。

●ブッチーニ／＜蝶々夫人＞より 「ある晴れた日に」

「蝶々夫人」は、1904年に初演されたブッチーニ（1858～1924）による2幕3場のオペラ。長崎を舞台とし、アメリカの海軍士官ピンカートンに純情をささげ、子供まで生みながら、捨てられたことを知って自殺してしまう蝶々夫人の悲劇をあつかったものです。東洋的な異国情緒と美しい旋律に満ちているため、世界中で愛されていますが、とくに、第2幕で蝶々夫人によって歌われるアリア「ある晴れた日に」はもっとも有名です。

●ブッチーニ／＜トスカ＞より 「妙なる調和」「歌に生き、恋に生き」

＜トスカ＞は、歌姫トスカとその恋人の画家カヴァラドッシ、政治犯としてカヴァラドッシをおとしめ、トスカを我が物にしようとする残忍な警視総監スカルピアをめぐるオペラで、随所に名アリアがちりばめられている傑作です。「妙なる調和」は、第1幕開始早々にカヴァラドッシによって歌われるアリア。短いながらも甘美な美しさに満ちています。「歌に生き、恋に生き」は、第2幕でトスカによって歌われるあまりにも有名なアリアです。

●ヴェルディ／＜リゴレット＞より 「女心の歌」

イタリア最大の歌劇作曲家ヴェルディ（1813～1901）の16番目のオペラ。放蕩な生活を送るマントヴァ公爵に仕える醜い道化リゴレットとその美しい娘ジルダの悲劇を描いたもので、ドラマに密着し登場人物の心理描写が実に見事な素晴らしい傑作として知られています。この有名なアリアは、マントヴァ公爵によって歌われているもので、アリアそのものがオペラの中で重要な役割を演じています。

●ヴェルディ／＜椿姫＞より 二重唱「乾杯の歌」

ヴェルディ18番目のオペラで、今日では、「ヴェルディの」というよりも、イタリアオペラの代表作として、もっとも人気の高い作品として知られています。物語は、パリに住む高級娼婦のヴィオレッタと彼女を愛するアルフレードの悲恋を描いたものですが、音楽は全曲にわたって美しい旋律に満ちあふれ、人情の機微が細やかに描かれた傑作です。この「乾杯の歌」は、第1幕、ヴィオレッタの客間で繰り広げられる華やかな夜会で、アルフレードとヴィオレッタによって歌われる二重唱です。